

# 司書就職活動体験記

坪根 史織 (文学部文学科文芸思想専修4年)

## はじめに

私は平成24年度の地方自治体の職員採用試験免許資格職(司書)で、幸運にも最終合格を頂きました。私の就職活動の体験記が、これから司書としての就職を目指す立教生の方のお役にたてれば幸いです。

## 1. 志望動機

私は子どもの頃から図書館に通っており、図書館が大好きでした。そんな思いを抱えながら大学生になり、司書資格を取ることは迷わずに決めました。そして私に「図書館で働きたい!」とより強く思わせてくれたのは、3年生で経験した、神奈川県立図書館での実習でした。立教大学では、司書課程の中で希望者全員がきちんと書類を提出すれば、図書館実習に行かせてもらえます。これは成績優秀者しか実習に行けない大学や、人数が限られている大学がある中で本当に恵まれていると思います。図書館実習では、講座の座学だけでは決して分からなかった図書館の仕事を体験させてもらいました。私はその仕事に非常に魅力を感じ、司書としての就職を志望しました。

## 2. 公務員試験対策について

### ① 教養試験

公共図書館の司書になるためには、殆どの場合、公務員試験が課されます。私が公務員試験の勉強を始めたのは、大学2年生の終わりです。中高と、数学が非常に苦手だったので数的処理は早めに手を付けなければと思い、先に数的処理だけ始めました。それ以外の、文章理解、社会科学、自然科学、人文科学等の科目は大学3年生の12月に開始しました。私は文学部だったので社会科学や自然科学は殆ど事前知識がない状態で、大変でした。効率的に勉強するために、いくつか捨て科目も思い切って作りました。予備校には行かず、参考書を買って自分のペースで勉強し、理系の分からない問題等は友人に教えてもらっていました。

予備校は模擬テストのみに活用しました。緊張状態で、時間内にどれだけ冷静に問題を解けるか、また、どこが出来ないのかを確認するためです。模擬テストの結果は毎回見るのが嫌でした。

### ② 専門試験対策

専門試験対策としてはまず、国立大学法人の過去問から始めました(公開されている5年分と、問題集があります)。しかし、これだけでは不十分かつ、問題の形式が違うものも沢山あるので、過去問をインターネットで調べました。例えば、試験を実施するそれぞれの地方自治体で問題を全て、又は一部公開しています。また、受験者らが司書試験の情報を提供しているHPがあったので、そこに提供されている問題も全てやりました。これらの問題は、答えが掲載されていないので、自分で丁寧に調べる必要があります。

ます。この場合、自分で回答を作成するので、暗記しやすいように簡潔に書くようにしていました。このことで、本番、論述問題が出ても、簡潔に書く力が付いたのではないかと思います。また、何問もやると同じような問題に出くわすので、その問題の重要度も図ることが出来ます。司書の専門試験は、対策の問題集を入手するのが大変ですが、私はこのような方法をとりました。

### 3. これから採用試験を受けようと思っている人へ

#### ① 試験の合格ラインは高い

司書試験の倍率は非常に高いです。筆記がどれだけ出来るかが最初の勝負です。面接をして頂く前に落ちてしまうのは非常にもったいないです。一般的な公務員試験の合格のための得点率は約60%と言われますが、司書の一次試験を突破するためにはそれ以上の得点率を狙うのがいいと思います。合格最低点を公開している地方自治体もよくあります。私が見た中では、合格最低点が、一般事務が約55%だったのに比べ、司書が約75%というものがありました。それくらいの差があるものだと最初から心して掛かる必要があります。

#### ② 一歩踏み込んだ勉強を

専門試験対策は、授業で使う教科書では補えない部分もあります。また、残念ながら限られた授業時間では補えない部分もやはり出てきてしまいます。しかし、そのような問題にも少しでも太刀打ちできるような力を付けるために、一歩踏み込んだ勉強を試みて下さい。本番の試験で、それが満点の答えにならずともある程度の記述ができ、選択問題では肢を少しでも減らしてくれるはずです。

#### ③ メンタル管理もしっかり

司書の試験は、周囲の就職活動期間と比較すると遅めです。公務員試験の中でも、後期にやるところが多いです。よって、私は常に不安と隣り合わせでした。図書館で働くことのできる最初の試験が国立大学法人の試験だったのですが、これでも5月の中旬です。この頃すでに民間企業を受けている友人らは内定をちらほらもらい始めていました。私の第一志望の試験は9月にあったのですが、その時にはもう、多くの友人が卒業旅行などの遊びに出かけており、取り残されている気分になりました。

また、そんなに多くは受けることが出来ないのに、常に就職浪人になるのかなと言う不安とも隣り合わせでした。親にも迷惑を掛けてしまうな、と思うこともしばしばでした。

そんな時は、勉強から離れました。内定をもらっている友人とも、そうでない友人とも、笑って話をしてストレスを発散していました。皆で励まし合い、不安だと思ふことは口に出していました。不安を抱えるのは誰でも同じです。試験は一人で太刀打ちしなければなりません。それは、試験の数時間の間だけです。それ以外の時間は、決して一人ではないのです。陰で支えてくれ、相談にも乗ってくれる両親、そして、たまにはお茶でもしないと誘ってくれ、笑い話をしてくれる友人、先輩後輩らが居るはずです。思いっきり羽を伸ばすと所は伸ばして、リフレッシュして下さい。

#### ④ 面接のために

人と接するのに慣れておくことは重要だと思います。多分これは、図書館に来る利用者への接遇にも繋がって来ると思うので、面接だけではないのだろうと考えますが、とにかく知らない人とも、明るく接することができるようになることは面接を突破するために非常に重要だと思います。

私が大学1年生の頃に、千代正明先生からお伺いしたのは、司書になりたいのであれば、民間企業で接客のアルバイトをして下さいと言うことでした。それを聞いて私は、民間企業の営業部で接客のアルバイトをしていたのですが、その中での経験は非常に面接に生かしたのではないかと考えています。私は数回しか面接をしていないのですが、面接で緊張して喋れないことはありませんでした。経験した面接の4回中3回は合格を頂きました。目を見て、笑顔で、明るく元気に喋れるだけで、かなり印象は違ってきます。そのスキルを手に入れるために、人と接するのが苦手な方は是非、接客のアルバイトをしてみてください。

あとは、受ける自治体の図書館の研究、政策の研究はきっちりとして下さい。ちなみに私は最終合格を頂いた第一志望の地方自治体の図書館全てに足を運び、実際に見たことや、それから派生してこんなこと考えたと言うことを、面接では主にお話しました。全てに足を運ぶ受験生は初めてですとお伺いしましたので、それくらいの熱意を持って面接に臨めば、印象もよくなるかもしれません。

## おわりに

この体験記は、あまりかしこまらず、等身大の私として書かせて頂きました。少しでも、私の体験記が司書を目指す立教生の方のお役にたてたら非常に光栄だと感じています。

就職体験記を書いてみませんかとお話を下さった永田先生、中村先生、貴重な機会を頂きました。どうもありがとうございます。

# 司書教諭就職活動体験記

金 美智子 (21世紀社会デザイン研究科博士前期課程3年)

私は、2013年4月より、私立中高一貫校の女子校にメディアセンターの専任司書教諭として勤めることになっています。同校は、東京都世田谷区にあるキリスト教主義の学校です。メディアセンターには約9万冊の蔵書があり、専任司書教諭が3名いるという大変恵まれた環境となっています。

## 1. 学校図書館員を目指した経緯

幸いにもこのような環境で働けることになった私ですが、学校図書館で働きたいと長年思ってきたわけではありません。母校の小学校、中学校は「人」が常時いる学校図書館ではなかったため、専任の司書教諭やいわゆる学校司書のいる学校もあるということを知らずに過ごしました。学校図書館専任で働くということは、最近まで私の思考のなかに全くなく、目指し始めたのはここ1年半ほどです。

大学入学時は教員志望だったので、学部生のときに中高の教員免許を取得し、あわせて司書教諭資格も取得しました。このとき司書教諭課程を受講し始めたのは、多少なりとも教員になるのに有利になればという期待と、読書が好きという程度の安易な気持ちでした。